

平成29年6月8日

報道機関 各位

過去の温暖化を乗り越えたライチョウ ～糞を用いた遺伝的多様性調査～

過去の温暖化によって、立山のライチョウは激減し、その後、個体数を回復させていたことが、遺伝子分析で解明された。

富山大学理学部の山崎裕治准教授の研究グループは、富山県雷鳥研究会と連携して、立山に生息するライチョウの遺伝子分析を、2013年と2014年に実施した。ライチョウを傷つけないために、現地で採取した糞を富山大学に持ち帰り、ミトコンドリアDNAの遺伝子型を分析した。

その結果、3つのタイプの遺伝子型が発見され、他地域のライチョウと同程度の多様性を保持していることが明らかになった。また、過去を推定した結果、大規模な個体数減少とその後の回復を経験しており、約6000年前の温暖化の影響が示唆された。

今回初めて、ライチョウの過去が遺伝子分析により解き明かされたことで、今後のライチョウ保護の進展が期待される。

この成果は、保全生態学研究（5月30日発行）で発表された。

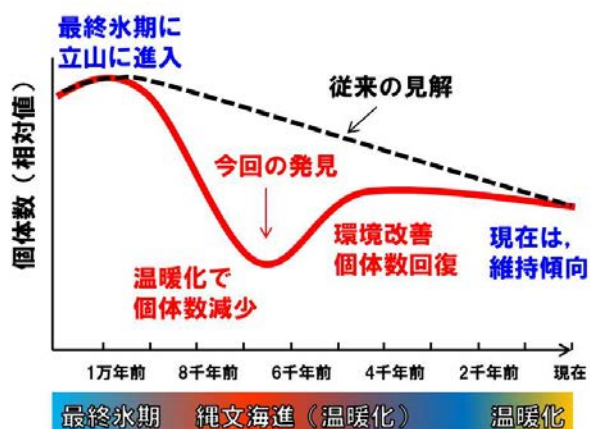


図. 立山のライチョウ個体数変化のイメージ



写真. ライチョウ調査風景

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 理学部（山崎 裕治）
TEL. 076-445-6642